

[た よ り]

島根県支部だより

鈴木恵子

はじめに

日本透析医会会長山崎親雄先生のご指導のもとに、平成14年12月島根県透析医会を結成いたしました。当初は岡山県医師会透析医部会の笹木久雄先生のご指導を受け、災害時対策マニュアル、災害時情報ネットワークづくりを中心に活動いたしました。

平成18年には島根大学医学部の先生方が入会、透析患者さんの予後の改善をめざして内分泌代謝異常研究を開始いたしました。これまでに透析医学会、地方会、研究会等で発表、成果を上げています。今年の春は島根大学医学部腎臓内科より4名、循環器専門の先生も入会、心血管合併症の研究、治療にも貢献できると期待しています。

島根県内の透析施設は23（内開業医が10施設）で、87%の施設が入会しています。

4月の総会と講演会には毎年日本透析医会から講師の先生を派遣していただいています。昨年は山川智之先生に透析医療をとりまく情勢について、今年は大田圭洋先生に高齢者の透析に関する諸問題についてご講演、ご指導いただきました。また、年末には勉強会と

忘年会、7月と1月にはコメディカルも含めた講演会（明日の透析医療を考える会）を開催しています。島根県は東西に長く、交通の便も悪いため行事の出席率が60%前後です。それでも支部ができてからは施設間の情報交換ができ、患者さんの紹介等がよりスムーズにできるようになりました。また、島根の透析医療の向上のための共同研究が発足、島根大学医学部内科学第一教室の矢野彰三先生が研究結果を「ネフロン」に発表されました。

島根県は74万人で人口の少ない県です。また、65歳以上が27%の高齢県でもあり、透析患者さん1,420人（平成19年10月1日現在）の内65歳以上が56%、80歳以上の方が15.4%もいらっしゃいます。高齢の患者さんには必然的に介護、通院の問題が付随し、同居の家族の協力、介護保険の利用が不可欠です。核家族化がすすみ、また合併症のため在宅療養が困難になる患者さんがますます増えることが予想されます。

医療破壊が進む昨今ですが、会員が協力してこれらの問題にも立ち向かって行きたいと思います。日本透析医会の先生方、今後ともよろしくご指導お願い申し上げます。